

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設基本構想策定に係る  
検討会議（第1回）議事録

- 日 時:平成28年6月27日（月）15:00～17:00
- 場 所:福島市中町ビル2階 大会議室
- 出席者:別紙出席者名簿のとおり
- 要 旨:以下のとおり

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介及び自己紹介

事務局から各委員紹介、各委員から自己紹介

4 オブザーバー及び事務局自己紹介

5 スケジュール確認

6 議事

(1) 正副会長選任

会長に菊地芳朗委員、副会長に蜂須賀禮子委員を選任

(2) 東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議報告  
(事務局)

資料4の1ページにより説明。

(3) 東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議報告  
(事務局)

資料4の2ページから3ページにより提言を踏まえた具体例と発信イメージとコンテンツの例についての説明。

【委員からの意見】

- 来場者へは、震災前と変わらない部分と同時に、震災により多くのものが失われたという事実も伝える必要がある。
- 施設の導入部分として、震災以前の地域がもともとどういう地域だったのか、例えば、文化とか歴史とかからはっていくのがいいと思う。
- 原子力災害や地震などの悲しい部分だけでなく、福島県のお祭りなどの伝統、例えば、浜通りの相馬野馬追い、浪江町の田植え踊り、二本松市の提灯祭りなど

を復興の形としてアピールしていけるものが施設内にあってほしい。

- 以前は、お祭りや伝統、漁業や農業が盛んであったが、その状況が震災により一変し、そこから再び新しく再生していく過程を伝えるのがいいと思う。そのためには震災以前に何があったのかを正しく見せることが必要になる。
- 見たり聞いたりするものだけでなく、実際に体験ができるようなコンテンツがあってほしい。
- 震災について思いなどを伝える人、特に若い世代の語り部等を育てる必要がある。
- 連携の中心となる場所を設け、そこに行けば、県内の様々な箇所とつながって映像を見ることができたり、会話ができるようなものや、また、実際に現地へ行ってみたいとなったときは、ツアーの案内をしてもらえそうな拠点としてのシステムがあるといい。
- アーカイブ拠点施設をきっかけに福島にきてもらい、そこから福島全体を周遊してもらうような仕組みを作ってほしい。
- 交通の便の悪さを考えると、宿泊のことも考慮する必要がある。例えば仮設住宅の体験宿泊や減災・防災キャンプなどができるような設備など。
- 10年後、20年後にはもう行く必要がなくなる施設ではなく、長く生きる施設になってほしい。
- インターネットなどの活用もあると思うが、世界の方々にも十分理解してもらえるかつ考えてもらえるような機能を備えてほしい。

#### (4) アーカイブ拠点施設で実施が考えられる活動

(事務局)

資料4の1ページによりアーカイブ拠点施設で実施が考えられる活動について説明。

##### 【各委員の意見】

- シアターを整備し、思いを発信する場を整備してほしい。  
福島の復興を支えるのは若者であり、若い世代が自分の言葉で、経験したこと、今の思い、これから先の福島をどう考えるかを発信できる場が必要。
- 震災後、文芸作品が生まれており、震災を経験した方たち（高齢者から子どもたちまで）の文章、詩のようなものを表現する場所があってほしい。
- 広島平和記念資料館においては、当事者が亡くなっても、その孫が新たな語り部となっている状況にある。正しく伝えられるような情報収集並びに教育があるといいと思う。
- 四季に応じてみどころが変わってくるような工夫があれば人が集まりやすいと思う。
- NPO法人など既存の組織と連携して行っていくのがいいと思う。

- バックヤードなど、裏方がしっかり整えられているのかが、長続きする展示や活動というものに結びついていくと考えているので、基本構想の中に盛り込んでほしい。
- 岩手県紫波町のオガールプラザのように、官民合同で施設を開発したり、施設周辺に地元の商店や施設を一体的に配置することも検討すべき。
- 県内の自治体の中で、アーカイブや追悼関係の施設を計画していると聞いているが、同じ施設が乱立しないよう、連携をとるか、意見を交換しながら進んでいただきたい。

## 7 閉会